

八代市厚生会館の今後の方針について

1 現状・課題

昭和 37 年 3 月竣工 7 月開館 用途：劇場
 構造：鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 階数：地下 1 階 地上 3 階
 延べ床面積：2956.28 m² 諸室：客席（964 席）、舞台、楽屋、ホワイエ、トイレ

竣工後 58 年が経過しており、その間必要な修繕や躯体の耐震補強は実施しているが、大規模改修は平成元年度に実施後 30 年間は実施されておらず、特に建築設備全般に経年劣化の進行が著しい状況である。また、その間、建築基準法等の改正などにより、非構造部材の耐震化や客席、楽屋等の機能改善が求められている。

2 厚生会館の検討経緯

厚生会館については、老朽化等により、将来的に安全に使用していくためには多額の改修費用がかかるうえに維持管理にかかる経費も高騰していくことから、八代民俗伝統芸能伝承館（仮称）建設による厚生会館休館時に、市内各ホール施設を含めた今後のあり方を総合的に検討することとなった。

- 文化ホール等あり方に関する庁内検討会(令和元年 7 月～令和 3 年 2 月まで計 5 回実施)
- 文化ホール等あり方検討会（令和 2 年 2 月～令和 3 年 1 月まで計 5 回実施）
- 文化ホール等あり方検討に関する市民アンケート（令和 2 年 6 月）
- 厚生会館劣化度調査（令和 2 年 7 月～令和 3 年 1 月報告書提出）

3 文化ホール等あり方検討に関する市民アンケート調査 結果**(1) 調査概要**

- ・ 18 歳以上の市民 3,000 人 令和 2 年 6 月 1 日（月）～ 令和 2 年 6 月 15 日（月）
- ・ 調査内容：市民による文化芸術活動の重要度や意識、自主文化事業、利用状況、文化ホールの今後の取り組み、施設の今後のあり方など 計 27 問
- ・ 回答結果 標本数 2,997 人 有効回答数 1,109 人 有効回答率 37.0%

(2) アンケート結果概要

アンケートでは、文化芸術を発表したり展示したりするホールや会場があることについて「非常に大切」「ある程度大切」という意見が88.0%を占めており、発表・展示する場があることについて大切だと考えている市民が非常に多い。

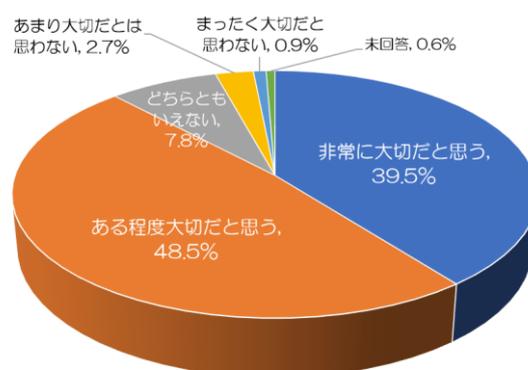
また、ホール施設の老朽化を踏まえた今後のあり方については「他の公共施設の建替えと併せて複合施設を建設し効率化を図る」「費用削減のため、一部を休館、閉館する」という財政状況に合わせた効率化や施設数縮減化の意見が約78%を占めている。

～参考：アンケート結果抜粋～

(2) 市民による文化芸術活動の重要度や認識について

質問1 文化芸術活動を発表したり展示したりするホールや会場があることについてどう思いますか。

| 項目 | 回答数 | 割合 |
|--------------|------|--------|
| 非常に大切だと思う | 438 | 39.5% |
| ある程度大切だと思う | 538 | 48.5% |
| どちらともいえない | 86 | 7.8% |
| あまり大切だとは思わない | 30 | 2.7% |
| まったく大切だと思わない | 10 | 0.9% |
| 未回答 | 7 | 0.6% |
| 合計 | 1109 | 100.0% |



・市民が文化芸術を発表したり展示したりするホールや会場があることについて「非常に大切」(39.5%)「ある程度大切」(48.5%)の合計が、全体の88.0%を占めており、発表・展示する場があることについて大切だと考えている市民が非常に多いことが分かる。

(7) 文化ホール等施設の今後のあり方について

質問2 八代市の4つの各施設は、今後老朽化に伴い改修や運営に要する費用は増加していくことが見込まれます。この状況をふまえて、どの取り組みが適切だと思いますか。

| 項目 | 回答数 | 割合 |
|-----------------------------------|-------|--------|
| 老朽化した施設の建替えや改修を行い、4施設ともこのまま維持していく | 143 | 12.9% |
| 他の公共施設の建替えと併せて複合施設を建設し効率化を図る | 470 | 42.4% |
| 費用削減のため、一部を休館、閉館する | 396 | 35.7% |
| その他 | 41 | 3.7% |
| 未回答 | 59 | 5.3% |
| 合計 | 1,109 | 100.0% |

・「他の公共施設の建替えと併せて複合施設を建設し効率化を図る」(42.4%)との回答が最も多く、「費用削減のため、一部を休館、閉館する」(35.7%)が次に多かった。逆に「老朽化した施設の建替えや改修を行い、4施設ともこのまま維持していく」(12.9%)との回答は少なく、財政状況に合わせた施設の縮減、効率化の考えをもっている方が多い状況であった。

4 八代市文化ホール等あり方検討会 結果 (※報告書抜粋)

3-(5) 市内各ホール施設の今後の方向性

〔厚生会館〕 ホール客席数：964 席

著名な建築家により設計され近代建築としてその価値は高く、八代城跡をはじめ松濱軒、博物館などの歴史的周辺環境とも調和した施設であることから、今後も市民が集える場所として利活用を期待したい。

しかし、その一方で建設から58年が経過し耐用年数も短いうえ、再開には多額の費用が見込まれる。さらに改修した場合でも座席数の減少や駐車場の不足、舞台設備等の使いづらさなど、様々な解消できない課題が残ることとなる。

これらの多様な要素を考慮しながら、市として慎重に検討を行い、その方針を示してもらいたい。

※参考

〔桜十字ホールやつしろ〕 ホール客席数：500 席

市の中心部に位置し、駐車場も他ホールと比較して広いことから、様々な行事やイベントに活用されており、利用率も高い。

今後も更に市民の文化芸術の発表・鑑賞の場として利活用の促進を図るとともに、市民参加型の企画運営体制の導入や市民の文化意識向上のための事業の企画実施に取り組んでももらいたい。

〔鏡文化センター〕 ホール客席数：610 席

市北部の重要な文化拠点であり、現在は市内で唯一自主文化事業を実施しているものの、市中心部から距離があり、立地面で不便な部分もあるため、他ホール施設と比較すると認知度が低く、更なる利用促進に努める必要がある。

今後、より積極的に文化団体や学校等と連携し、情報収集や情報発信及び事業の充実を図り、市民に広く親しまれる施設づくりに取り組むとともに、専門的人材の確保に向けた管理運営体制の見直しも検討してもらいたい。

〔八代市公民館〕 ホール客席数：535 席

市の生涯学習の拠点施設としての重要な役割を担っているものの、教育施設として営利目的による利用に制限があるため、もっと利用しやすくして欲しいとの声もある。

このため表現活動の場として一層活用の幅を広げるため、ホール部分を公民館部分と分離して管理するなど管理運営体制の見直し等を検討してもらいたい。

また、慣れ親しんだ「パトリア千丁」という愛称を公民館ホールの後に付けるなど、千丁コミュニティーセンターと区別できるようにして欲しい。

3-(6) 本市文化の発展に向けた施設の検討と社会・財政状況に応じた効率化

市内の施設で質の高い文化芸術を鑑賞し、体験できるということは、市民の文化意識の向上に寄与する重要な要素であるとともに、市民に感動や活力を与え、心豊かな生活をおくるために大切なものである。

しかしながら、本市の各ホール施設の現状は、近隣自治体のホール施設と比較しても人口規模に対する座席数が少ないことから興行面での採算性が低く、質の高い多種多様な鑑賞機会の提供が極めて少ない状況にあるとともに、今後施設の老朽化による管理運営経費はますます増大していくことが懸念される。

市民が身近に質の高い文化芸術に触れ、感動し、創造性を育んでいくためには、市民の発表の場としてのみならず、国内外の優れた舞台芸術公演の鑑賞ができるような、興行面でも採算性の高い十分な座席数を備えたホール施設が必要である。

そのため、中長期的な視点をもって施設の整理統合など財政的効率化を図りつつ、本市の優れた交通アクセスを活かした交流人口の拡大や観光産業発展につながり、ひいては市民の夢、希望となるような、新たな県南の拠点ホール施設の整備について検討してもらいたい。

5 八代市厚生会館劣化度等調査結果

(1) 調査概要

本調査は、昭和37年建設の八代市厚生会館において、平成29年3月に策定された「八代市公共施設等総合管理計画」に基づき、目標耐用年数を考慮した施設整備について、現況調査を行い劣化度等の評価をしたうえで、現行法令への適否や調査によって確認された諸課題を整理することを目的として実施。

(2) 調査期間 令和2年7月20日から令和3年1月29日まで

(3) 調査内容

- ・机上調査 設計図書、特定建築物定期点検結果等
- ・ヒアリング 施設管理者等
- ・現地調査 目視や打診、動作確認、専門技術者等による特殊診断等

(4) 調査結果（今後20年間使用していくために必要な改修項目）

ア) 建築関係

- ①機械室の新設
- ②非構造部材（客席吊天井）の耐震化
- ③正面エントランス庇の切断面部分、内部クラック等の修理
- ④舞台資材搬出入路のトラックターミナル段差の改修、長年の劣化蓄積による建物周囲及び客席一部の沈下があり改修が必要。
- ⑤屋上防水及び、外壁の改修工事は30年以上前に行ったのみであり、屋上防水層の劣化及び外壁のコンクリートのクラック等による雨漏りが著しく改修が必要。
- ⑥経年劣化が原因で起こる鉄筋腐食によるコンクリートの爆裂破壊が多数見られるため、外壁やバルコニーの大規模な改修が必要。
- ⑦現行の建築基準法等に抵触しており、改修が必要。
 - 上手及び下手の楽屋廊下扉を内開きから外開きへの改修
 - 階段手摺の高さを現状の70cmから110cmへ嵩上げ改修
- ⑧玄関の自動ドアや正面入り口のスロープなどのバリアフリー化が必要。
- ⑨客席が現代の成人の体格では、狭く窮屈すぎるため現在主流の幅に広げる改修が必要。また、消防法的には座席前避難時の通り抜け幅が不足しており、全席改修の必要あり。(964席 [幅45cm] →734席 [幅54cm] ※固定652席+移動82席)

イ) 設備関係

- ①建設当時から大規模改修を行っていない空調設備や電気設備などの建築設備全般に経年劣化の進行が著しいため、改修が必要。(空調ダクト、冷温水配管、電気配線)
- ②高圧受電設備、防災用設備、ホール空調設備及び給排水設備の新設が必要。(自家発電設備、空調用熱源、受水槽、消火水槽など)

ウ) 舞台関係

- ①舞台吊物機構設備は、昭和 59 年にブドウ棚を木製から鉄製に改修して以来、36 年が経過しており、耐震化及び電動化が必要。
- ②舞台床のささくれや劣化が著しいため補修及び張替えが必要。
- ③舞台照明設備及び客席照明の改修が必要。(舞台照明設備は、改修後 15 年経過、客席照明は 30 年以上経過)
- ④舞台音響設備は、改修後 10 年以上経過しており、改修が必要。(耐用年数は 10 年～15 年程度とされている。)

(5) 建築に係る改修項目及び概算改修費用

| 改修項目 | 改修費用（千円） |
|-------------------------------------------|----------|
| 機械室新設 | 69,310 |
| 大ホール吊天井改修 | 88,384 |
| 外・内部改修（正面エントランス庇、内部クラック等） | 7,989 |
| 舞台資材搬出入路整備 | 8,303 |
| 舞台床改修 | 2,733 |
| 客席沈下改修（上手中通路前方付近） | 9,406 |
| 外壁改修 | 38,570 |
| 屋上防水改修（舞台中央、ホワイエ2階天井雨漏り） | 51,549 |
| 客席改修（964席（45cm）→734席（54cm）（固定652席+移動82席）） | 222,063 |
| 主入口自動ドア改修（バリアフリー法） | 14,136 |
| 外部スロープ新設（バリアフリー法） | 5,255 |
| 外部階段等改修（バリアフリー法） | 6,728 |
| エレベーター新設（バリアフリー法）（ホワイエ1階⇔2階） | 35,000 |
| 楽屋周りドア改修（建築基準法に抵触） | 1,104 |
| 計 A | 560,530 |

(6) 設備に係る改修項目及び概算改修費用

| 改修項目 | 改修費用（千円） |
|-------------------------------|-----------|
| 高圧受変電設備新設 | 43,571 |
| 電気設備改修 | 74,488 |
| 防災設備改修（火災報知設備、非常放送設備、自家発電設備等） | 44,992 |
| ホール空調設備改修（熱源・空調機等新設、換気設備等） | 274,955 |
| 給排水、消火設備改修（貯水槽等新設） | 87,594 |
| 舞台機構設備改修（ブドウ棚含む） | 549,618 |
| 館内照明関係LED化改修 | 59,027 |
| 舞台照明設備改修（LED化） | 201,068 |
| 舞台音響設備改修 | 152,072 |
| 計 B | 1,487,385 |

(7) 今後20年間使用していくために必要な概算改修費用

(A+B) 合計 2,047,915 千円

(8) 上記改修工事に伴う設計委託費用

合計 102,396 千円

6 八代市厚生会館の今後の方針

厚生会館は、著名な建築家により設計された近代建築であり、長年にわたり市民が文化芸術に触れ、感動し、発表することのできる本市文化の発信拠点として親しまれてきました。

また、伝承館設計段階では、両館の機能的連携を図るため、伝承館の供用開始に併せて厚生会館の再開を予定していました。

しかしながら、建設から58年が経過し、老朽化や関係法令の改正に伴う不適合などから様々な改修を要することとなり、劣化度調査の結果、すべての機能を再開した場合、その費用は現段階で約20億円が見込まれています。

さらに、本市の財政収支の今後の見通しでは、当面、財政運営上は楽観視できない状況であることに加え、令和2年7月豪雨災害からの復興、新型コロナウイルス感染症対策など喫緊の課題に直面しており、それらに対応するため、中期財政計画の見直しを行なうなど、今後の厳しさへの対応に迫られています。

これらの課題、八代市文化ホール等あり方検討会結果報告、及び市民アンケート結果等を踏まえ、慎重に検討した結果、今後の厚生会館に関する方針として以下のとおりとします。

- 八代市厚生会館は、ホール（劇場）としては再開しないものの、大規模な改修を必要としないスペースの活用可能性・方策について、民間提案制度などを含め、令和3年度中に検討を行うこととします。
- 厚生会館のホール機能停止が本市の文化振興・発展の妨げとならないように他ホール施設における自主文化事業等の更なる充実を図ります。
- 本市の文化振興・発展の拠点として、十分な客席数や設備を備えたホール施設は必要性が高いことから、ファシリティマネジメントの観点をもふまえ、将来への負担やホール施設の統廃合等も総合的に勘案し、利便性や効率性を考慮したホール施設整備の検討も併せて行っていくこととします。